

令和5年度第1回諏訪医療圏 地域医療構想調整会議	資料 1-2
令和5年9月1日	

各医療機関における対応方針について  
(諏訪圏域)

# 目次

## <病院>

- p. 3 岡谷市民病院
- p. 5 諏訪中央病院
- p. 7 諏訪赤十字病院
- p. 9 富士見高原病院
- p. 11 諏訪湖畔病院
- p. 13 諏訪共立病院
- p. 15 祐愛病院
- p. 17 諏訪城東病院
- p. 19 諏訪マタニティークリニック
- p. 21 信濃医療福祉センター

## <有床診療所>

- p. 23 山崎医院
- p. 25 野村ウイメンズクリニック
- p. 27 あおぞらレディス&マタニティークリニック

\*回答様式「2. 今後の方針（2）2025年における非稼働病棟への対応②、③、④」については、該当医療機関がなかったため省略しました。

# 地域医療構想における2025年に向けた対応方針

医療機関名：

岡谷市民病院

## 1. 自院の現状

(1) 許可病床数（令和4年（2022年）7月1日時点）

①病床の種別毎の病床数

合計	一般病床	療養病床	精神病床	結核病床	感染症病床
295	266	25	0	0	4

②病床機能毎の病床数

合計	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟中
291	8	152	89	42	0

(2) 医師・看護職員の職員数（令和4年（2022年）7月1日時点）

職種	医師		看護師		准看護師		看護補助者	
	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤
人数	40	5.9	233	48.4	6	1.9	5	13.8

(3) 診療科目（令和4年（2022年）7月1日時点）

緩和ケア内科,内科,呼吸器内科,循環器内科,消化器内科（胃腸内科）,腎臓内科,脳神経内科,糖尿病・内分泌代謝内科,外科,呼吸器外科,心臓・血管外科,乳腺外科,消化器外科（胃腸外科）,整形外科,小児科,小児外科,産婦人科,眼科,耳鼻いんこう科,皮膚科,泌尿器科,精神科,心療内科,歯科口腔外科,リウマチ科,リハビリテーション科,麻酔科,病理診断科

(4) 自院の特徴と課題

①特徴

岡谷市民病院は、諏訪医療圏の中核病院として急性期から回復期、緩和ケアや療養の慢性期など多機能を有しているほか、在宅ケアセンターでは訪問看護、訪問リハビリテーションの提供、健診センターでは院内健診、巡回健診などの予防医療を提供し、地域住民の生命と健康を守る総合病院として、高度で良質な医療を提供している。また、救急医療では第二次救急医療機関として救急患者の対応、さらに第二種感染症指定医療機関として、新型コロナウイルス感染症や新興感染症の対応など地域の感染症医療の中心的な役割を担っている。

②課題

特にありません。

## 2. 今後の方針

### (1) 自院の今後の方針

2025年・2030年を見据え、貴医療機関が圏域の中で担う役割について以下から該当するものを選択いただくとともに、具体的な今後の方針について記載してください。（該当する役割すべてに「○」、そのうち主たる役割を1つ選択のうえ「◎」を記載願います。）

今後の圏域における役割	回答欄
① 重症の救急患者への対応や手術など、高度・専門医療を中心とした急性期医療を担う医療機関	◎
② 救急患者の初期対応や比較的症状が軽い患者に対する急性期医療を担う医療機関	○
③ 在宅や介護施設等で急性増悪した患者（サブアキュート）や、急性期経過後に引き続き入院医療を要する患者（ポストアキュート）の受入機能を担う地域包括ケアの拠点となる医療機関	○
④ 回復期リハビリテーション医療を提供する医療機関	○
⑤ 長期にわたり療養が必要な患者（重度の障がい者（児）を含む）に対する入院医療を担う医療機関	○
⑥ 特定の診療に特化した役割を担う医療機関（例：産婦人科、精神科等）	○
⑦ かかりつけ医としての役割や在宅医療における中心的な役割を担う医療機関	○

#### 【具体的な今後の方針】

今後の対応は現行の方針と変更ありません。

### (2) 2025年における非稼働病床への対応

#### ①非稼働病床の有無（2022.7.1時点）

非稼働病床の有無	無
----------	---

### (3) 2025年・2030年における許可病床数の予定

病床機能	2022.7.1時点 (A)	2025年 (B)	現在との差 (B-A)	変更時期 1 (※)	2030年 (C)	現在との差 (C-A)	2025年 との差 (C-B)	変更時期 2 (※)
高度急性期	8	8	0		8	0	0	
急性期	152	152	0		152	0	0	
回復期	89	89	0		89	0	0	
慢性期	42	42	0		42	0	0	
休棟	0	0	0		0	0	0	
廃止		0	0		0	0	0	
介護施設等への転換		0	0		0	0	0	
合計	291	291	0		291	0	0	

※ 左欄で「0」以外の数値が入っている欄に変更予定時期を記入してください。（記入例：2027年7月）

# 地域医療構想における2025年に向けた対応方針

医療機関名：

組合立諏訪中央病院

## 1. 自院の現状

(1) 許可病床数（令和4年（2022年）7月1日時点）

①病床の種別毎の病床数

合計	一般病床	療養病床	精神病床	結核病床	感染症病床
360	324	36	0	0	0

②病床機能毎の病床数

合計	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟中
360	34	206	84	36	0

(2) 医師・看護職員の職員数（令和4年（2022年）7月1日時点）

職種	医師		看護師		准看護師		看護補助者	
	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤
人数	60	36.8	313	41.1	0	2.5	3	26.2

(3) 診療科目（令和4年（2022年）7月1日時点）

漢方内科,腫瘍内科,内分泌内科,内科,呼吸器内科,循環器内科,消化器内科,腎臓内科,脳神経内科,代謝内科,血液内科,感染症内科,外科,乳腺外科,消化器外科,肛門外科,脳神経外科,整形外科,小児科,産婦人科,眼科,耳鼻いんこう科,皮膚科,泌尿器科,精神科,歯科口腔外科,リウマチ科,リハビリテーション科,放射線科,麻酔科,病理診断科,救急科

(4) 自院の特徴と課題

①特徴

外来診療においては内科から歯科口腔外科まで25診療科の外来を行っている。

入院診療については、一般病床、地域包括ケア病床、回復期リハビリテーション病床、医療療養型病床、緩和ケア病床を有し、附帯事業として訪問リハビリ、訪問看護を展開し、入院から退院、退院後の在宅生活への医療・介護サービスの提供を行い、患者様のトータルケアを目指す諏訪圏～八ヶ岳西麓の医療を支える中核的な総合病院。また八ヶ岳西麓の救急拠点病院。

②課題

- ・継続的な医療従事者の確保。（特に産婦人科、泌尿器科、透析科の医師確保及び薬剤師確保が課題）
- ・働き方改革の一環である医師の宿日直体制の確立。

## 2. 今後の方針

### (1) 自院の今後の方針

2025年・2030年を見据え、貴医療機関が圏域の中で担う役割について以下から該当するものを選択いただくとともに、具体的な今後の方針について記載してください。（該当する役割すべてに「○」、そのうち主たる役割を1つ選択のうえ「◎」を記載願います。）

今後の圏域における役割	回答欄
① 重症の救急患者への対応や手術など、高度・専門医療を中心とした急性期医療を担う医療機関	◎
② 救急患者の初期対応や比較的症状が軽い患者に対する急性期医療を担う医療機関	○
③ 在宅や介護施設等で急性増悪した患者（サブアキュート）や、急性期経過後に引き続き入院医療を要する患者（ポストアキュート）の受入機能を担う地域包括ケアの拠点となる医療機関	○
④ 回復期リハビリテーション医療を提供する医療機関	○
⑤ 長期にわたり療養が必要な患者（重度の障がい者（児）を含む）に対する入院医療を担う医療機関	○
⑥ 特定の診療に特化した役割を担う医療機関（例：産婦人科、精神科等）	○
⑦ かかりつけ医としての役割や在宅医療における中心的な役割を担う医療機関	○

#### 【具体的な今後の方針】

前新改革プランでも挙げているように当院が果たすべき役割は①八ヶ岳西麓の救急医療を担うこと、②高齢者に多い整形外科領域や複数疾患をもつ患者への適切な医療の提供、③在宅復帰に向けたリハビリテーション医療の充実、④在宅では診ることのできない慢性患者の受け入れを質の向上を図りながら進める、⑤安心して子供を出産し、育てられるよう小児・分娩体制の充実を図ること、と考えている。当医療圏は山梨県境に及び広大であるので、当院は諏訪赤十字病院と協力しつつ、救急・急性期医療については重症の患者への対応や手術、ある程度の高度・専門医医療を担う使命があると考えている。

### (2) 2025年における非稼働病棟への対応

#### ①非稼働病棟の有無（2022.7.1時点）

非稼働病棟の有無	無
----------	---

### (3) 2025年・2030年における許可病床数の予定

病床機能	2022.7.1時点 (A)	2025年 (B)	現在との差 (B-A)	変更時期 1 (※)	2030年 (C)	現在との差 (C-A)	2025年 との差 (C-B)	変更時期 2 (※)
高度急性期	34	34	0		34	0	0	
急性期	206	206	0		206	0	0	
回復期	84	84	0		84	0	0	
慢性期	36	36	0		36	0	0	
休棟	0	0	0		0	0	0	
廃止		0	0		0	0	0	
介護施設等への転換		0	0		0	0	0	
合計	360	360	0		360	0	0	

※ 左欄で「0」以外の数値が入っている欄に変更予定時期を記入してください。（記入例：2027年7月）

地域医療構想における2025年に向けた対応方針

医療機関名：

諏訪赤十字病院

1. 自院の現状

(1) 許可病床数（令和4年（2022年）7月1日時点）

①病床の種別毎の病床数

合計	一般病床	療養病床	精神病床	結核病床	感染症病床
455	425	0	30	0	0

②病床機能毎の病床数

合計	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟中
425	271	154	0	0	0

(2) 医師・看護職員の職員数（令和4年（2022年）7月1日時点）

職種	医師		看護師		准看護師		看護補助者	
	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤
人数	106	3.2	548	23.4	0	0.9	54	1.4

(3) 診療科目（令和4年（2022年）7月1日時点）

内科,腫瘍内科,緩和ケア内科,呼吸器内科,循環器内科,消化器内科,腎臓内科,脳神経内科,糖尿病・内分泌内科,血液内科,外科,呼吸器外科,心臓血管外科,乳腺・内分泌外科,消化器外科,脳神経外科,整形外科,形成外科,小児科,産婦人科,眼科,耳鼻咽喉科,皮膚科,泌尿器科,精神科,歯科口腔外科,リウマチ・膠原病内科,リハビリテーション科,放射線科,麻酔科,病理診断科,救急科

(4) 自院の特徴と課題

①特徴

当院は諏訪医療圏の基幹病院として政策医療を幅広く担っており、地域医療支援病院、救命救急センター、地域がん診療連携拠点病院（高度型）、がんゲノム医療連携病院、地域周産期母子医療センター、認知症疾患医療センター（地域型）、地域災害拠点病院など指定を受けている。また、脳血管疾患に対しては、SCUを有しt-PAなど専門治療を提供するなど一次脳卒中センターとしての役割を果たし、心血管疾患に対しては、ハイブリット手術室を新たに設置するとともにTAVIなど専門治療を提供している。なお、高度・専門医療において、手術室の増室、大型医療機器（ダヴィンチ、アンギオ装置等）導入など機能の充実を継続的に実施しており、DPC特定病院群に6期連続で指定されている。

在宅医療においては、訪問看護ステーション、居宅介護支援事業所を有し、ターミナルや急性期など医療依存度の高い利用者への提供体制を充実している。

②課題

- ・医療ニーズに対応し機能充実を図ってきたが、病院の狭隘化が深刻となっている。
- ・本館建物も築23年と老朽化も進んでおり、建て替えなど将来構想を検討しなければならない。
- ・医療提供を継続するため、人材確保、医療機器の整備を行うための安定した経営基盤の構築。
- ・人口減少に伴い新患の受入れを推進するために圏域の拡大が求められる。
- ・諏訪医療圏の回復期病床、慢性期病床の不足により、圏域外の医療機関との後方連携が必要となる。
- ・諏訪赤十字看護学校の存続の検討。
- ・救急科や総合診療科など、医師不足の診療科への増員。
- ・働き方改革に伴う医師の時間外労働の削減。

## 2. 今後の方針

### (1) 自院の今後の方針

2025年・2030年を見据え、貴医療機関が圏域の中で担う役割について以下から該当するものを選択いただくとともに、具体的な今後の方針について記載してください。（該当する役割すべてに「○」、そのうち主たる役割を1つ選択のうえ「◎」を記載願います。）

今後の圏域における役割	回答欄
① 重症の救急患者への対応や手術など、高度・専門医療を中心とした急性期医療を担う医療機関	◎
② 救急患者の初期対応や比較的症状が軽い患者に対する急性期医療を担う医療機関	○
③ 在宅や介護施設等で急性増悪した患者（サブアキュート）や、急性期経過後に引き続き入院医療を要する患者（ポストアキュート）の受入機能を担う地域包括ケアの拠点となる医療機関	
④ 回復期リハビリテーション医療を提供する医療機関	
⑤ 長期にわたり療養が必要な患者（重度の障がい者（児）を含む）に対する入院医療を担う医療機関	
⑥ 特定の診療に特化した役割を担う医療機関（例：産婦人科、精神科等）	○
⑦ かかりつけ医としての役割や在宅医療における中心的な役割を担う医療機関	

#### 【具体的な今後の方針】

高度・専門医療を中心とした急性期医療を継続するとともに、周産期医療、精神疾患など特定の診療に対しても役割を果たしていく。

### (2) 2025年における非稼働病棟への対応

#### ①非稼働病棟の有無（2022.7.1時点）

非稼働病棟の有無	無
----------	---

### (3) 2025年・2030年における許可病床数の予定

病床機能	2022.7.1時点 (A)	2025年 (B)	現在との差 (B-A)	変更時期 1 (※)	2030年 (C)	現在との差 (C-A)	2025年 との差 (C-B)	変更時期 2 (※)
高度急性期	271	271	0		271	0	0	
急性期	154	154	0		154	0	0	
回復期	0	0	0		0	0	0	
慢性期	0	0	0		0	0	0	
休棟	0	0	0		0	0	0	
廃止		0	0		0	0	0	
介護施設等への転換		0	0		0	0	0	
合計	425	425	0		425	0	0	

※ 左欄で「0」以外の数値が入っている欄に変更予定時期を記入してください。（記入例：2027年7月）



# 地域医療構想における2025年に向けた対応方針

医療機関名： **富士見高原医療福祉センター富士見高原病院**

## 1. 自院の現状

(1) 許可病床数（令和4年（2022年）7月1日時点）

①病床の種別毎の病床数

合計	一般病床	療養病床	精神病床	結核病床	感染症病床
161	161	0	0	0	0

②病床機能毎の病床数

合計	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟中
161	0	161	0	0	0

(2) 医師・看護職員の職員数（令和4年（2022年）7月1日時点）

職種	医師		看護師		准看護師		看護補助者	
	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤
人数	26	2.7	119	12.7	9	2.5	19	4.4

(3) 診療科目（令和4年（2022年）7月1日時点）

内科,呼吸器科,循環器科,消化器科,神経内科,外科,こう門科,整形外科,形成外科,小児科,産婦人科,眼科,耳鼻咽喉科,皮膚科,泌尿器科,精神科,歯科口腔外科,リハビリテーション科,放射線科,麻酔科

(4) 自院の特徴と課題

①特徴

当院は諏訪医療圏内の諏訪郡富士見町にあり、町内の唯一の総合病院として医療事業を展開している。また町内に開業の医院・クリニックが少ないことから、かかりつけ医としても機能しており、多数の外来患者にも対応している。また、二次救急告示病院として原則すべての救急患者を受け入れている。さらに山梨県との県境に位置することから山梨県側からの患者流入も多く、実際、入院・外来患者および救急車による搬入数の約3割が山梨県の患者が占めている。このように、当院は長野県諏訪圏のみならず、県境を越えた八ヶ岳南麓を一つの医療圏として機能している。

②課題

- ・医師数の不足や高齢化に伴い、日当直業務の負担が極めて大きくなっている。独自の若手医師確保を模索するとともに、日当直業務を含めた基幹病院からの医師派遣体制の整備が望まれる。
- ・外来患者数が多く、個々の医師が診ることのできる患者数がほぼ飽和状態となっている。近隣の医院・クリニックから入院の必要な患者を紹介していただくとともに、安定した患者は積極的に逆紹介していくという、病診連携の推進が必要である。
- ・今後ますます増えることが予想される高齢者心不全や慢性呼吸器疾患患者に対応するため、それぞれに対する緩和ケアチームを立ち上げ、活動を拡げていくことが必要である。
- ・常勤の麻酔科専門医が不在のため、緊急手術に支障を来す可能性が高い。

## 2. 今後の方針

### (1) 自院の今後の方針

2025年・2030年を見据え、貴医療機関が圏域の中で担う役割について以下から該当するものを選択いただくとともに、具体的な今後の方針について記載してください。（該当する役割すべてに「○」、そのうち主たる役割を1つ選択のうえ「◎」を記載願います。）

今後の圏域における役割	回答欄
① 重症の救急患者への対応や手術など、高度・専門医療を中心とした急性期医療を担う医療機関	
② 救急患者の初期対応や比較的症状が軽い患者に対する急性期医療を担う医療機関	◎
③ 在宅や介護施設等で急性増悪した患者（サブアキュート）や、急性期経過後に引き続き入院医療を要する患者（ポストアキュート）の受入機能を担う地域包括ケアの拠点となる医療機関	◎
④ 回復期リハビリテーション医療を提供する医療機関	
⑤ 長期にわたり療養が必要な患者（重度の障がい者（児）を含む）に対する入院医療を担う医療機関	○
⑥ 特定の診療に特化した役割を担う医療機関（例：産婦人科、精神科等）	
⑦ かかりつけ医としての役割や在宅医療における中心的な役割を担う医療機関	○

#### 【具体的な今後の方針】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ありふれた疾患は子供から高齢者(看取りを含む)まで、地域完結型の医療を提供</li> <li>・高度急性期後の在宅復帰を目的としたポストアキュート症例や、在宅・施設からのサブアキュート症例の積極的な受け入れ</li> <li>・在宅や施設療養との連携を推進するための地域包括ケアセンター機能の充実</li> <li>・近隣で開業する医院・クリニックとの綿密な連携および紹介・逆紹介の推進</li> <li>・神経難病・身体障害者の積極的な受け入れ</li> </ul>
--

### (2) 2025年における非稼働病床への対応

#### ①非稼働病床の有無（2022.7.1時点）

非稼働病床の有無	無
----------	---

### (3) 2025年・2030年における許可病床数の予定

病床機能	2022.7.1時点 (A)	2025年 (B)	現在との差 (B-A)	変更時期 1 (※)	2030年 (C)	現在との差 (C-A)	2025年 との差 (C-B)	変更時期 2 (※)
高度急性期	0	0	0		0	0	0	
急性期	161	107	-54		107	-54	0	
回復期	0	54	54		54	54	0	
慢性期	0	0	0		0	0	0	
休棟	0	0	0		0	0	0	
廃止		0	0		0	0	0	
介護施設等への転換		0	0		0	0	0	
合計	161	161	0		161	0	0	

※ 左欄で「0」以外の数値が入っている欄に変更予定時期を記入してください。（記入例：2027年7月）

地域医療構想における2025年に向けた対応方針

医療機関名：

医療法人研成会 諏訪湖畔病院

1. 自院の現状

(1) 許可病床数（令和4年（2022年）7月1日時点）

①病床の種別毎の病床数

合計	一般病床	療養病床	精神病床	結核病床	感染症病床
245	140	0	105	0	0

②病床機能毎の病床数

合計	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟中
140	0	58	82	0	0

(2) 医師・看護職員の職員数（令和4年（2022年）7月1日時点）

職種	医師		看護師		准看護師		看護補助者	
	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤
人数	12	3.7	80	13.1	32	3.4	38	11.3

(3) 診療科目（令和4年（2022年）7月1日時点）

内科 循環器内科 消化器内科 脳神経内科 脳神経外科 整形外科 泌尿器科 精神科 心療内科 老年内科  
リハビリテーション科 歯科 歯科口腔外科

(4) 自院の特徴と課題

①特徴

当院は、諏訪地域の病院群輪番制参加病院として、軽症～中等症の入院を要する患者に対応してきた。また、急性期治療が終了しリハビリ等が必要な回復期の患者を、諏訪赤十字病院・岡谷市民病院等から受入。回復期リハビリテーション病棟・地域包括ケア病棟で治療を行い、在宅・高齢者施設等に退院を進めている。リハスタッフの充実を図り、入院や外来のリハビリだけでなく、訪問リハビリにより在宅への復帰支援を行っている。

②課題

医師・看護師等の高齢化により医療従事者の確保が必要であるが、岡谷市内の看護学校が閉校予定であり、看護師の獲得は非常に困難となる見込み。医師も紹介会社からの紹介が頼りである状況。

## 2. 今後の方針

### (1) 自院の今後の方針

2025年・2030年を見据え、貴医療機関が圏域の中で担う役割について以下から該当するものを選択いただくとともに、具体的な今後の方針について記載してください。（該当する役割すべてに「○」、そのうち主たる役割を1つ選択のうえ「◎」を記載願います。）

今後の圏域における役割	回答欄
① 重症の救急患者への対応や手術など、高度・専門医療を中心とした急性期医療を担う医療機関	
② 救急患者の初期対応や比較的軽微な患者に対する急性期医療を担う医療機関	◎
③ 在宅や介護施設等で急性増悪した患者（サブアキュート）や、急性期経過後に引き続き入院医療を要する患者（ポストアキュート）の受入機能を担う地域包括ケアの拠点となる医療機関	○
④ 回復期リハビリテーション医療を提供する医療機関	○
⑤ 長期にわたり療養が必要な患者（重度の障がい者（児）を含む）に対する入院医療を担う医療機関	
⑥ 特定の診療に特化した役割を担う医療機関（例：産婦人科、精神科等）	○
⑦ かかりつけ医としての役割や在宅医療における中心的な役割を担う医療機関	○

#### 【具体的な今後の方針】

①施設入所者・在宅で訪問看護を受けている患者の急変時や、救急患者の初期対応、比較的軽微な症状の急性期医療を担う病棟。
②急性期後(ポストアキュート)の受入機能を担い、在宅に戻す役割の病棟。
③術後・急性期後のリハビリを行い在宅・施設に戻す機能の病棟。

### (2) 2025年における非稼働病棟への対応

#### ①非稼働病棟の有無（2022.7.1時点）

非稼働病棟の有無	無
----------	---

### (3) 2025年・2030年における許可病床数の予定

病床機能	2022.7.1時点 (A)	2025年 (B)	現在との差 (B-A)	変更時期 1 (※)	2030年 (C)	現在との差 (C-A)	2025年 との差 (C-B)	変更時期 2 (※)
高度急性期	0	0	0		0	0	0	
急性期	58	58	0		58	0	0	
回復期	82	82	0		82	0	0	
慢性期	0	0	0		0	0	0	
休棟	0	0	0		0	0	0	
廃止		0	0		0	0	0	
介護施設等への転換		0	0		0	0	0	
合計	140	140	0		140	0	0	

※ 左欄で「0」以外の数値が入っている欄に変更予定時期を記入してください。（記入例：2027年7月）

# 地域医療構想における2025年に向けた対応方針

医療機関名： **社会医療法人南信勤労者医療協会諏訪共立病院**

## 1. 自院の現状

(1) 許可病床数（令和4年（2022年）7月1日時点）

①病床の種別毎の病床数

合計	一般病床	療養病床	精神病床	結核病床	感染症病床
110	56	54	0	0	0

②病床機能毎の病床数

合計	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟中
110	0	56	54	0	0

(2) 医師・看護職員の職員数（令和4年（2022年）7月1日時点）

職種	医師		看護師		准看護師		看護補助者	
	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤
人数	4	6.15	62	11.52	13	0	13	2.45

(3) 診療科目（令和4年（2022年）7月1日時点）

内科,循環器内科,消化器内科（胃腸内科）,外科,小児科,心療内科

(4) 自院の特徴と課題

①特徴

- ・ 諏訪医療圏の中で、諏訪赤十字病院、岡谷市民病院の後方支援病院として、急性期から回復期を担う。
- ・ 在宅医療と在宅系、施設系の介護事業所を展開。
- ・ 外来ならびに入院透析ともに提供。
- ・ 訪問診療を中心とした在宅医療の提供体制。

②課題

(1) 地域の課題

- ・ 高齢化や核家族化、共働き世帯の一層の進展・増加等に伴う介護が必要な高齢者の増加や重度化。一人暮らし高齢者や高齢者のみの世帯が増加する等介護力の低下。
- ・ 認知症を持つ方の増加、しかし安心して生活できる環境にはない。
- ・ 療養型病院の不足、入院で人工透析ができる施設の不足。

(2) 病院の課題

- ・ 地域として人口減少ならびに高齢化より、今後外来患者の増加を見込めない。
- ・ 医師、看護師体制が脆弱である。
- ・ 地域の療養病床が少なく、長期入院患者の受け皿が不足し、既存病棟の在院日数が長期化している。（単価の低下につながる）
- ・ 経営環境の厳しさの中で、地域の医療提供体制の確保を図りつつ、病院の経営安定化を目指すことが求められる。

## 2. 今後の方針

### (1) 自院の今後の方針

2025年・2030年を見据え、貴医療機関が圏域の中で担う役割について以下から該当するものを選択いただくとともに、具体的な今後の方針について記載してください。（該当する役割すべてに「○」、そのうち主たる役割を1つ選択のうえ「◎」を記載願います。）

今後の圏域における役割	回答欄
① 重症の救急患者への対応や手術など、高度・専門医療を中心とした急性期医療を担う医療機関	
② 救急患者の初期対応や比較的症状が軽い患者に対する急性期医療を担う医療機関	○
③ 在宅や介護施設等で急性増悪した患者（サブアキュート）や、急性期経過後に引き続き入院医療を要する患者（ポストアキュート）の受入機能を担う地域包括ケアの拠点となる医療機関	◎
④ 回復期リハビリテーション医療を提供する医療機関	○
⑤ 長期にわたり療養が必要な患者（重度の障がい者（児）を含む）に対する入院医療を担う医療機関	○
⑥ 特定の診療に特化した役割を担う医療機関（例：産婦人科、精神科等）	
⑦ かかりつけ医としての役割や在宅医療における中心的な役割を担う医療機関	○

#### 【具体的な今後の方針】

(1) 社会医療法人としての任務と役割 「24時間365日」「断らない」方針を掲げ、地域住民が安心して暮らせるよう、高齢者を中心とした総合医療を担う。

(2) 人工透析と療養病床 人工透析は25床に増床。対応療養病床は15床+入院透析患者の病床の確保含め30床を設置。

(3) 在宅療養を支える入院機能と医療介護連携強化 ポストアキュート、サブアキュートさらに在宅復帰支援の役割を持つ地域包括ケア病床の増床。ワンストップサービス、法人外事業所との連携のしやすさ。⇒ ワンフロアー化、面談室、カンファレンスの充実

### (2) 2025年における非稼働病床への対応

#### ①非稼働病床の有無（2022.7.1時点）

非稼働病床の有無	無
----------	---

### (3) 2025年・2030年における許可病床数の予定

病床機能	2022.7.1時点 (A)	2025年 (B)	現在との差 (B-A)	変更時期 1 (※)	2030年 (C)	現在との差 (C-A)	2025年 との差 (C-B)	変更時期 2 (※)
高度急性期	0	0	0		0	0	0	
急性期	56	56	0		49	-7	-7	2028年
回復期	54	54	0		50	-4	-4	
慢性期	0	0	0		0	0	0	2028年
休棟	0	0	0		0	0	0	
廃止		0	0		11	11	11	
介護施設等への転換		0	0		0	0	0	
合計	110	110	0		99	-11	-11	

※ 左欄で「0」以外の数値が入っている欄に変更予定時期を記入してください。（記入例：2027年7月）

# 地域医療構想における2025年に向けた対応方針

医療機関名：

祐愛病院

## 1. 自院の現状

(1) 許可病床数（令和4年（2022年）7月1日時点）

①病床の種別毎の病床数

合計	一般病床	療養病床	精神病床	結核病床	感染症病床
49	0	49	0	0	0

②病床機能毎の病床数

合計	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟中
49	0	0	0	49	0

(2) 医師・看護職員の職員数（令和4年（2022年）7月1日時点）

職種	医師		看護師		准看護師		看護補助者	
	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤
人数	4	1	6	2	8	1	10	4

(3) 診療科目（令和4年（2022年）7月1日時点）

内科,胃腸科,外科,消化器外科,脳神経外科,整形外科,形成外科

(4) 自院の特徴と課題

①特徴

医療療養型病床として他病院等からの希望にこたえ、医療を必要とする慢性期の患者さんを受け入れています。  
入院したら、最期の看取りまで看護を続けます。

②課題

受け入れできる人数が少ないので、各病院や診療所からの希望に応えることが難しいことがある。

## 2. 今後の方針

### (1) 自院の今後の方針

2025年・2030年を見据え、貴医療機関が圏域の中で担う役割について以下から該当するものを選択いただくとともに、具体的な今後の方針について記載してください。（該当する役割すべてに「○」、そのうち主たる役割を1つ選択のうえ「◎」を記載願います。）

今後の圏域における役割	回答欄
① 重症の救急患者への対応や手術など、高度・専門医療を中心とした急性期医療を担う医療機関	
② 救急患者の初期対応や比較的症状が軽い患者に対する急性期医療を担う医療機関	
③ 在宅や介護施設等で急性増悪した患者（サブアキュート）や、急性期経過後に引き続き入院医療を要する患者（ポストアキュート）の受入機能を担う地域包括ケアの拠点となる医療機関	
④ 回復期リハビリテーション医療を提供する医療機関	
⑤ 長期にわたり療養が必要な患者（重度の障がい者（児）を含む）に対する入院医療を担う医療機関	◎
⑥ 特定の診療に特化した役割を担う医療機関（例：産婦人科、精神科等）	
⑦ かかりつけ医としての役割や在宅医療における中心的な役割を担う医療機関	○

#### 【具体的な今後の方針】

現状維持でと考えている。

### (2) 2025年における非稼働病棟への対応

#### ①非稼働病棟の有無（2022.7.1時点）

非稼働病棟の有無	無
----------	---

### (3) 2025年・2030年における許可病床数の予定

病床機能	2022.7.1時点 (A)	2025年 (B)	現在との差 (B-A)	変更時期 1 (※)	2030年 (C)	現在との差 (C-A)	2025年 との差 (C-B)	変更時期 2 (※)
高度急性期	0	0	0		0	0	0	
急性期	0	0	0		0	0	0	
回復期	0	0	0		0	0	0	
慢性期	49	49	0		49	0	0	
休棟	0	0	0		0	0	0	
廃止		0	0		0	0	0	
介護施設等への転換		0	0		0	0	0	
合計	49	49	0		49	0	0	

※ 左欄で「0」以外の数値が入っている欄に変更予定時期を記入してください。（記入例：2027年7月）



地域医療構想における2025年に向けた対応方針

医療機関名：

諏訪城東病院

1. 自院の現状

(1) 許可病床数（令和4年（2022年）7月1日時点）

①病床の種別毎の病床数

合計	一般病床	療養病床	精神病床	結核病床	感染症病床
48	0	48	0	0	0

②病床機能毎の病床数

合計	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟中
48	0	0	0	48	0

(2) 医師・看護職員の職員数（令和4年（2022年）7月1日時点）

職種	医師		看護師		准看護師		看護補助者	
	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤
人数	2	2	3	7	7	2	7	5

(3) 診療科目（令和4年（2022年）7月1日時点）

内科,循環器内科,消化器内科（胃腸内科）,外科,神経科,精神科,心療内科

(4) 自院の特徴と課題

①特徴

当院は療養病床48床の小規模病院で、急性期病院での治療後も長期療養が必要な患者や侵襲的な治療を望まない患者を受け入れています。また感染症や心不全等を繰り返している患者の緊急入院等も対応し、地域の急性期病院が満床で受け入れ困難な場合の軽症～中等症の入院患者の受け皿としても対応しています。

②課題

継続的な医療従事者の確保

## 2. 今後の方針

### (1) 自院の今後の方針

2025年・2030年を見据え、貴医療機関が圏域の中で担う役割について以下から該当するものを選択いただくとともに、具体的な今後の方針について記載してください。（該当する役割すべてに「○」、そのうち主たる役割を1つ選択のうえ「◎」を記載願います。）

今後の圏域における役割	回答欄
① 重症の救急患者への対応や手術など、高度・専門医療を中心とした急性期医療を担う医療機関	
② 救急患者の初期対応や比較的症状が軽い患者に対する急性期医療を担う医療機関	○
③ 在宅や介護施設等で急性増悪した患者（サブアキュート）や、急性期経過後に引き続き入院医療を要する患者（ポストアキュート）の受入機能を担う地域包括ケアの拠点となる医療機関	○
④ 回復期リハビリテーション医療を提供する医療機関	
⑤ 長期にわたり療養が必要な患者（重度の障がい者（児）を含む）に対する入院医療を担う医療機関	◎
⑥ 特定の診療に特化した役割を担う医療機関（例：産婦人科、精神科等）	○
⑦ かかりつけ医としての役割や在宅医療における中心的な役割を担う医療機関	○

#### 【具体的な今後の方針】

感染症流行期でも面会制限を必要としない病院を目指して、感染対策設備を拡充させるとともに、諏訪医療圏から他医療圏や他県に流出している長期療養が必要な慢性期患者の受け入れ先としての使命を果たしていきたい。

### (2) 2025年における非稼働病棟への対応

#### ①非稼働病棟の有無（2022.7.1時点）

非稼働病棟の有無	無
----------	---

### (3) 2025年・2030年における許可病床数の予定

病床機能	2022.7.1時点 (A)	2025年 (B)	現在との差 (B-A)	変更時期 1 (※)	2030年 (C)	現在との差 (C-A)	2025年 との差 (C-B)	変更時期 2 (※)
高度急性期	0	0	0		0	0	0	
急性期	0	0	0		0	0	0	
回復期	0	0	0		0	0	0	
慢性期	48	48	0		48	0	0	
休棟	0	0	0		0	0	0	
廃止		0	0		0	0	0	
介護施設等への転換		0	0		0	0	0	
合計	48	48	0		48	0	0	

※ 左欄で「0」以外の数値が入っている欄に変更予定時期を記入してください。（記入例：2027年7月）

# 地域医療構想における2025年に向けた対応方針

医療機関名：

諏訪マタニティークリニック

## 1. 自院の現状

(1) 許可病床数（令和4年（2022年）7月1日時点）

①病床の種別毎の病床数

合計	一般病床	療養病床	精神病床	結核病床	感染症病床
33	33	0	0	0	0

②病床機能毎の病床数

合計	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟中
33	0	33	0	0	0

(2) 医師・看護職員の職員数（令和4年（2022年）7月1日時点）

職種	医師		看護師		准看護師		看護補助者	
	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤
人数	4	0.2	12	3.3	7	1.7	8	0

(3) 診療科目（令和4年（2022年）7月1日時点）

産科婦人科・小児科

(4) 自院の特徴と課題

①特徴

諏訪マタニティークリニックは、患者さんにとって身近な産婦人科施設でありたい—そんな願いを込め、昭和51年に病床数11床の産科婦人科クリニックとして開院しました。

その後、不妊治療を求めて来院される患者さんがたにより最先端の治療を提供できるよう、不妊治療施設「諏訪リプロダクションセンター」を併設、33床の産科・婦人科・小児科病院へととなりました。

当院で産まれた赤ちゃんは1万5千人を超え、体外受精件数も1万件を超えました。

周産期医療（妊娠・出産・育児）・不妊治療・手術・教育研究を柱と考え「医療は患者さんのためにある」と、患者さんと共にあるより良い医療を常に目指しています。

②課題

全国的な少子化問題。医療従事者の慢性的な人手不足(産婦人科医・助産師・看護師等) 出産数が減少しても、医療体制(設備・人員)を維持すること

## 2. 今後の方針

### (1) 自院の今後の方針

2025年・2030年を見据え、貴医療機関が圏域の中で担う役割について以下から該当するものを選択いただくとともに、具体的な今後の方針について記載してください。（該当する役割すべてに「○」、そのうち主たる役割を1つ選択のうえ「◎」を記載願います。）

今後の圏域における役割	回答欄
① 重症の救急患者への対応や手術など、高度・専門医療を中心とした急性期医療を担う医療機関	
② 救急患者の初期対応や比較的症状が軽い患者に対する急性期医療を担う医療機関	
③ 在宅や介護施設等で急性増悪した患者（サブアキュート）や、急性期経過後に引き続き入院医療を要する患者（ポストアキュート）の受入機能を担う地域包括ケアの拠点となる医療機関	
④ 回復期リハビリテーション医療を提供する医療機関	
⑤ 長期にわたり療養が必要な患者（重度の障がい者（児）を含む）に対する入院医療を担う医療機関	
⑥ 特定の診療に特化した役割を担う医療機関（例：産婦人科、精神科等）	◎
⑦ かかりつけ医としての役割や在宅医療における中心的な役割を担う医療機関	

#### 【具体的な今後の方針】

地域の医療ニーズや現状の医療機関との連携状況から、特に医療機能を変更する必要がない
---

### (2) 2025年における非稼働病棟への対応

#### ①非稼働病棟の有無（2022.7.1時点）

非稼働病棟の有無	無
----------	---

### (3) 2025年・2030年における許可病床数の予定

病床機能	2022.7.1時点 (A)	2025年 (B)	現在との差 (B-A)	変更時期 1 (※)	2030年 (C)	現在との差 (C-A)	2025年 との差 (C-B)	変更時期 2 (※)
高度急性期	0	0	0		0	0	0	
急性期	33	33	0		33	0	0	
回復期	0	0	0		0	0	0	
慢性期	0	0	0		0	0	0	
休棟	0	0	0		0	0	0	
廃止		0	0		0	0	0	
介護施設等への転換		0	0		0	0	0	
合計	33	33	0		33	0	0	

※ 左欄で「0」以外の数値が入っている欄に変更予定時期を記入してください。（記入例：2027年7月）

地域医療構想における2025年に向けた対応方針

医療機関名：

社会福祉法人信濃医療福祉センター

1. 自院の現状

(1) 許可病床数 (令和4年(2022年)7月1日時点)

①病床の種別毎の病床数

合計	一般病床	療養病床	精神病床	結核病床	感染症病床
127	127	0	0	0	0

②病床機能毎の病床数

合計	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟中
127	0	0	0	127	0

(2) 医師・看護職員の職員数 (令和4年(2022年)7月1日時点)

職種	医師		看護師		准看護師		看護補助者	
	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤
人数	7	1	45	8.6	10	2.2	35	4.8

(3) 診療科目 (令和4年(2022年)7月1日時点)

整形外科,小児科,精神科,歯科,リハビリテーション科

(4) 自院の特徴と課題

①特徴

肢体不自由児及び重症心身障害児が入所する医療型障害児入所施設です。整形外科,小児科,リハビリテーション科,精神科,歯科を標榜する病院として長野県内の児童を中心に入院治療・療育を、主に発達障害を持つお子さんの外来診察及びリハビリテーションを行っています。

②課題

年々入所児の重症度が高くなっており、医療的ケアを必要とする児童、特に呼吸器を24時間使用する児童が増えてきています。そのため、患者1人に対しての職員に係る人数の増加や、呼吸器等の医療機器がベッド周り多数配置されるため、病室のスペースが手狭になっています。

## 2. 今後の方針

### (1) 自院の今後の方針

2025年・2030年を見据え、貴医療機関が圏域の中で担う役割について以下から該当するものを選択いただくとともに、具体的な今後の方針について記載してください。（該当する役割すべてに「○」、そのうち主たる役割を1つ選択のうえ「◎」を記載願います。）

今後の圏域における役割	回答欄
① 重症の救急患者への対応や手術など、高度・専門医療を中心とした急性期医療を担う医療機関	
② 救急患者の初期対応や比較的症状が軽い患者に対する急性期医療を担う医療機関	
③ 在宅や介護施設等で急性増悪した患者（サブアキュート）や、急性期経過後に引き続き入院医療を要する患者（ポストアキュート）の受入機能を担う地域包括ケアの拠点となる医療機関	
④ 回復期リハビリテーション医療を提供する医療機関	
⑤ 長期にわたり療養が必要な患者（重度の障がい者（児）を含む）に対する入院医療を担う医療機関	◎
⑥ 特定の診療に特化した役割を担う医療機関（例：産婦人科、精神科等）	○
⑦ かかりつけ医としての役割や在宅医療における中心的な役割を担う医療機関	

#### 【具体的な今後の方針】

<p>これまでと同様に、地域の障害児の受け入れ施設、入院医療を担う医療機関として、地域医療を支えていく方針です。</p>
--

### (2) 2025年における非稼働病棟への対応

#### ①非稼働病棟の有無（2022.7.1時点）

非稼働病棟の有無	無
----------	---

### (3) 2025年・2030年における許可病床数の予定

病床機能	2022.7.1時点 (A)	2025年 (B)	現在との差 (B-A)	変更時期 1 (※)	2030年 (C)	現在との差 (C-A)	2025年 との差 (C-B)	変更時期 2 (※)
高度急性期	0	0	0		0	0	0	
急性期	0	0	0		0	0	0	
回復期	0	0	0		0	0	0	
慢性期	127	127	0		127	0	0	
休棟	0	0	0		0	0	0	
廃止		0	0		0	0	0	
介護施設等への転換		0	0		0	0	0	
合計	127	127	0		127	0	0	

※ 左欄で「0」以外の数値が入っている欄に変更予定時期を記入してください。（記入例：2027年7月）

地域医療構想における2025年に向けた対応方針

医療機関名：

山崎医院

1. 自院の現状

(1) 許可病床数 (令和4年(2022年)7月1日時点)

①病床の種別毎の病床数

合計	一般病床	療養病床	精神病床	結核病床	感染症病床
15	4	11	0	0	0

②病床機能毎の病床数

合計	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟中
15	0	0	0	15	0

(2) 医師・看護職員の職員数 (令和4年(2022年)7月1日時点)

職種	医師		看護師		准看護師		看護補助者	
	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤
人数	1	0	3	0	3	0	2	0

(3) 診療科目 (令和4年(2022年)7月1日時点)

内科,小児科

(4) 自院の特徴と課題

①特徴

当院は慢性期の要介護状態で介護施設では療養が難しい医療依存度の高い患者の受け入れをしています。

②課題

継続的な医療従事者の確保。(特に看護師)

## 2. 今後の方針

### (1) 自院の今後の方針

2025年・2030年を見据え、貴医療機関が圏域の中で担う役割について以下から該当するものを選択いただくとともに、具体的な今後の方針について記載してください。（該当する役割すべてに「○」、そのうち主たる役割を1つ選択のうえ「◎」を記載願います。）

今後の圏域における役割	回答欄
① 重症の救急患者への対応や手術など、高度・専門医療を中心とした急性期医療を担う医療機関	
② 救急患者の初期対応や比較的症状が軽い患者に対する急性期医療を担う医療機関	
③ 在宅や介護施設等で急性増悪した患者（サブアキュート）や、急性期経過後に引き続き入院医療を要する患者（ポストアキュート）の受入機能を担う地域包括ケアの拠点となる医療機関	
④ 回復期リハビリテーション医療を提供する医療機関	
⑤ 長期にわたり療養が必要な患者（重度の障がい者（児）を含む）に対する入院医療を担う医療機関	◎
⑥ 特定の診療に特化した役割を担う医療機関（例：産婦人科、精神科等）	
⑦ かかりつけ医としての役割や在宅医療における中心的な役割を担う医療機関	○

#### 【具体的な今後の方針】

現状を継続していく予定
-------------

### (2) 2025年における非稼働病棟への対応

#### ①非稼働病棟の有無（2022.7.1時点）

非稼働病棟の有無	無
----------	---

### (3) 2025年・2030年における許可病床数の予定

病床機能	2022.7.1時点 (A)	2025年 (B)	現在との差 (B-A)	変更時期 1 (※)	2030年 (C)	現在との差 (C-A)	2025年 との差 (C-B)	変更時期 2 (※)
高度急性期	0	0	0		0	0	0	
急性期	0	0	0		0	0	0	
回復期	0	0	0		0	0	0	
慢性期	15	15	0		15	0	0	
休棟	0	0	0		0	0	0	
廃止		0	0		0	0	0	
介護施設等への転換		0	0		0	0	0	
合計	15	15	0		15	0	0	

※ 左欄で「0」以外の数値が入っている欄に変更予定時期を記入してください。（記入例：2027年7月）



地域医療構想における2025年に向けた対応方針

医療機関名：

野村ウィメンズクリニック

1. 自院の現状

(1) 許可病床数（令和4年（2022年）7月1日時点）

①病床の種別毎の病床数

合計	一般病床	療養病床	精神病床	結核病床	感染症病床
9	9	0	0	0	0

②病床機能毎の病床数

合計	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟中
9	0	9	0	0	0

(2) 医師・看護職員の職員数（令和4年（2022年）7月1日時点）

職種	医師		看護師		准看護師		看護補助者	
	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤
人数	1	0	5	3	2	1	0	0

(3) 診療科目（令和4年（2022年）7月1日時点）

産婦人科
------

(4) 自院の特徴と課題

①特徴

経膈分娩と流早産、妊娠悪阻による点滴治療
----------------------

②課題

特になし
------

## 2. 今後の方針

### (1) 自院の今後の方針

2025年・2030年を見据え、貴医療機関が圏域の中で担う役割について以下から該当するものを選択いただくとともに、具体的な今後の方針について記載してください。（該当する役割すべてに「○」、そのうち主たる役割を1つ選択のうえ「◎」を記載願います。）

今後の圏域における役割	回答欄
① 重症の救急患者への対応や手術など、高度・専門医療を中心とした急性期医療を担う医療機関	
② 救急患者の初期対応や比較的症状が軽い患者に対する急性期医療を担う医療機関	
③ 在宅や介護施設等で急性増悪した患者（サブアキュート）や、急性期経過後に引き続き入院医療を要する患者（ポストアキュート）の受入機能を担う地域包括ケアの拠点となる医療機関	
④ 回復期リハビリテーション医療を提供する医療機関	
⑤ 長期にわたり療養が必要な患者（重度の障がい者（児）を含む）に対する入院医療を担う医療機関	
⑥ 特定の診療に特化した役割を担う医療機関（例：産婦人科、精神科等）	◎
⑦ かかりつけ医としての役割や在宅医療における中心的な役割を担う医療機関	

#### 【具体的な今後の方針】

あと数年で分娩中止

### (2) 2025年における非稼働病棟への対応

#### ①非稼働病棟の有無（2022.7.1時点）

非稼働病棟の有無	無
----------	---

### (3) 2025年・2030年における許可病床数の予定

病床機能	2022.7.1時点 (A)	2025年 (B)	現在との差 (B-A)	変更時期 1 (※)	2030年 (C)	現在との差 (C-A)	2025年 との差 (C-B)	変更時期 2 (※)
高度急性期	0	0	0		0	0	0	
急性期	9	9	0		0	-9	-9	未定
回復期	0	0	0		0	0	0	
慢性期	0	0	0		2	2	2	未定
休棟	0	0	0		0	0	0	
廃止		0	0		7	7	7	
介護施設等への転換		0	0		0	0	0	
合計	9	9	0		2	-7	-7	

※ 左欄で「0」以外の数値が入っている欄に変更予定時期を記入してください。（記入例：2027年7月）

地域医療構想における2025年に向けた対応方針

医療機関名：

あおぞらレディス&マタニティクリニック

1. 自院の現状

(1) 許可病床数（令和4年（2022年）7月1日時点）

①病床の種別毎の病床数

合計	一般病床	療養病床	精神病床	結核病床	感染症病床
16	16	0	0	0	0

②病床機能毎の病床数

合計	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟中
16	0	16	0	0	0

(2) 医師・看護職員の職員数（令和4年（2022年）7月1日時点）

職種	医師		看護師		准看護師		看護補助者	
	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤
人数	1	0.2	9	3.8	2	0	0	0.1

(3) 診療科目（令和4年（2022年）7月1日時点）

産婦人科
------

(4) 自院の特徴と課題

①特徴

地域の周産期医療。母体保護法指定医としての人工妊娠中絶。婦人科診療全般。
--------------------------------------

②課題

医師・助産師不足。後継者問題。
-----------------

## 2. 今後の方針

### (1) 自院の今後の方針

2025年・2030年を見据え、貴医療機関が圏域の中で担う役割について以下から該当するものを選択いただくとともに、具体的な今後の方針について記載してください。（該当する役割すべてに「○」、そのうち主たる役割を1つ選択のうえ「◎」を記載願います。）

今後の圏域における役割	回答欄
① 重症の救急患者への対応や手術など、高度・専門医療を中心とした急性期医療を担う医療機関	
② 救急患者の初期対応や比較的症状が軽い患者に対する急性期医療を担う医療機関	
③ 在宅や介護施設等で急性増悪した患者（サブアキュート）や、急性期経過後に引き続き入院医療を要する患者（ポストアキュート）の受入機能を担う地域包括ケアの拠点となる医療機関	
④ 回復期リハビリテーション医療を提供する医療機関	
⑤ 長期にわたり療養が必要な患者（重度の障がい者（児）を含む）に対する入院医療を担う医療機関	
⑥ 特定の診療に特化した役割を担う医療機関（例：産婦人科、精神科等）	◎
⑦ かかりつけ医としての役割や在宅医療における中心的な役割を担う医療機関	

#### 【具体的な今後の方針】

引き続き、諏訪地域の正常分娩を取り扱う医療機関として役割を担っていく。

### (2) 2025年における非稼働病床への対応

#### ①非稼働病床の有無（2022.7.1時点）

非稼働病床の有無	無
----------	---

### (3) 2025年・2030年における許可病床数の予定

病床機能	2022.7.1時点 (A)	2025年 (B)	現在との差 (B-A)	変更時期 1 (※)	2030年 (C)	現在との差 (C-A)	2025年 との差 (C-B)	変更時期 2 (※)
高度急性期	0	0	0		0	0	0	
急性期	16	16	0		16	0	0	
回復期	0	0	0		0	0	0	
慢性期	0	0	0		0	0	0	
休棟	0	0	0		0	0	0	
廃止		0	0		0	0	0	
介護施設等への転換		0	0		0	0	0	
合計	16	16	0		16	0	0	

※ 左欄で「0」以外の数値が入っている欄に変更予定時期を記入してください。（記入例：2027年7月）